

立命館 災害復興支援室 瓦版

かわらばん

【第30号】2016年6月30日発行

【活動レポート】

■平成28年熊本地震 学生ボランティア 被災地で農作業をお手伝い

4月14日以来相次いで発生している平成28年熊本地震の被災地へ、農業支援のボランティアに行きました。



場所は、4月16日の本震で震度7を記録した熊本県阿蘇郡西原村。家が片付かず農作業に手が回らないと嘆く声を受け、5月に入り同地に被災農家を支援する「西原村農業復興ボランティアセンター」が発足。通常の災害ボランティアセンターとは異なる枠組みで生活再建の支援が行われることになりました。農家にとって、春から夏にかけては田植えのほか作物の作付けや収穫に入る大事な時期。高齢化なども相まって、人手不足は深刻な問題でした。第1回5月11日(水)～13日(金)の活動に7人、第2回6月3日(金)～6日(月)の活動に17人の学生が参加しました。

<参加した学生の感想>

「益城町の被害状況を実際に目の当たりにしたときは、言葉を失った。壊れた家屋の1つ1つにその人の生活があったと思うと辛かった。」「この活動前まではボランティアはただ現地の復興活動を手伝うというイメージを持っていたが、ボランティアと現地のニーズを繋ぐ仕事をするボランティアの存在を知ることができた。しかも、とても重要な存在だということを教わった。」「現地で御世話になった西原村農業ボランティアセンターを立ち上げた河合さん、自身の農地の復興を後にして地域の復興に力を入れていた曾我さん夫婦をはじめ多くの方が誰かのために力を尽くしており人として学ぶことが多かった。」「今回の震災について、世間からは『東北の時ほどひどくない』というような意見が挙げられている。しかし、イコール『助けがいらぬ』とは全く違う。むしろ今回こそが東北の時より、いち早く被災地を被災地と呼べないようになるべきではないか。」



■3.11追悼企画 「いのちのつどい」開催

東日本大震災から5年を迎えた3月11日(金)、立命館大学国際平和ミュージアムにて、東日本大震災によって犠牲になられた方々の鎮魂と被害を受けた地域の復興を願って「3.11いのちのつどい」を開催しました。

12時からの「ランチタイム・トークセッション」には、高校生から一般の方まで約60名が参加。災害復興支援室の5年間の取り組みと立命館の学生・生徒による支援活動の報告、来場者を変えたトークセッションを行いました。福島県楢葉町の郷土料理や、福島県のお米、宮城県石巻市のたらこ等を振る舞い、大変好評でした。

14時からの追悼式典の参加者は約130名。立命館災害復興支援室の建山和由室長による挨拶、国際平和ミュージアムの安齋育郎名誉館長からのメッセージに続き、モダンジャズバレエ工部が追悼のダンス、混声合唱団メディックスが「震災復興を願う歌」の合唱などを披露。この5年間に活動した学生や東北のお世話になった方々からのメッセージを災害復興支援室、山口洋典副室長が映像とともに代読。地震のあった14時46分には、全員で黙祷し、献花、献灯をしました。

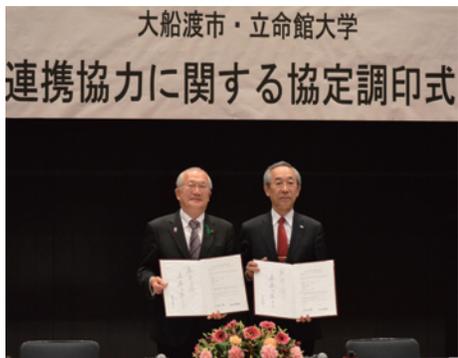
<参加者の感想>

「活動報告を聞き、たくさんの人の経験したことや考えたことを知ることができました。東北料理ははじめて食べたが、とてもおいしかった。」「改めて震災の被害や復興の現状などについて考えるきっかけとなった。」「今、どうなっているのかを考えるだけで精一杯だったが、将来どうするのかを考えていきたいと思った。」「震災のつらい悲しい面だけでなく、前向きなとらえ方で3.11に向き合っている方がたくさんいて私も自分にできることをやっていきたいと思った。」



■岩手県大船渡市と立命館大学 あらたに包括連携協定を締結

立命館大学は、大船渡市と2012年4月24日に「災害復興に向けた連携協力に関する協定」を締結し、継続的に復興支援活動を実施してきました。この協定が2016年3月31日をもって期間満了したことに伴い、更なる多様な連携や協働の取組みを促進することを目的とした「包括連携協定」を結ぶこととなり、2016年4月29日(金)、大船渡市民文化会館にて調印式を執り行いました。



～記念講演とワークショップ

「学びにきゃっせん！」を開催～

午後からは、包括連携協定締結記念フォーラム「学びにきゃっせん！」を開催しました。参加者は33名。

プログラムは「復興と減災～東日本大震災の5年とこれから」と題した塩崎賢明災害復興支援室副室長による記念講演、「大船渡の〇〇自慢」を語り合い、今後の学びへのテーマを探るワークショップ(山口洋典 同副室長)などでした。

<参加者の感想>

「講演・ワークショップ共にとてもよかった。得るものが多かった。」「改めて、大船渡の魅力について知ることができた。震災後の応急的な復旧(ハード)と同時に支援(ソフト)の大切さを知った。」「日本のみならず、海外の事例もあり、震災からの復興を幅広くとらえられた。」「市内外、県外出身の方の意見が聞

けて面白かった。」「地元においてあたりまえだと思っていたことが外部の人から見ると魅力的なことが多くあった。』



■大船渡市長が 朱雀キャンパスに来学

2016年4月10日(日)、岩手県大船渡市の戸田市長が立命館大学朱雀キャンパスに来られました。立命館からは、大船渡市で活動中の立命館学生団体(大船渡リターンズ、モダンジャズバレエ部)の学生や災害復興支援室室長をはじめとする立命館教職員の総勢11名がお迎えしました。戸田市長からは、復興計画の進捗状況などについてご説明いただきました。また学生はそれぞれの活動を写真を交えながら紹介したり、これからの意気込みを熱く語りました。



<参加学生の感想>

「昨年5月に大船渡を訪問し、大船渡の方々と直接お会いして初めて分かることが多かった。今年5月に再訪する予定なので、さらに多くのことを学びたい。」「大船渡での活動を通じて、世代を超えた交流の大切さを学んだ。今後も大船渡と深く関わっていきたい。』

■「いばらきx立命館DAY2016」で 災害復興支援室がパネル展

2016年5月15日(日)、立命館いばらきキャンパスで開催された「いばらきx立命館DAY2016」に災害復興支援室が出席し、東北や熊本地震の被災地への復興支援活動をパネルで紹介しました。学生団体「4.14kyushu+R」が支援室のブース内で熊本地震の募金活動を行いました。



■『サンマとカタル 女川 つながる人々』上映会開催

2016年6月8日(水)朱雀キャンパスホールにて、映画『サンマとカタル 女川つながる人々』の上映会を開催しました。2011年3月11日に発生した東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県女川町の復興を記録したドキュメンタリー映画です。89名の来場があり、有意義な上映会となりました。

【今後の主な取り組み予定など】

◆第三回 平成28年熊本地震

学生主体によるボランティア活動
募集中です。

日時 7月8日(金)～7月11日(月)

場所 熊本県阿蘇郡西原村

◆後方支援34便(檜葉町)

今年も実施予定です。

日時 8月30日(火)～9月6日(火)

場所 福島県双葉郡檜葉町

◆復興+R基金

教職員からの寄付を受け、被災した学生23名の生活支援、学生の現地での活動を支援してきました。熊本地震の発災を受けて再開を予定しています。

■総長呼びかけによる 「平成28年熊本地震義援金」へ 約200万円の義援金が集まりました。

熊本県を中心とした現地では、地震から2ヶ月以上が経過した時点でも、今なお6,000人を超す方が避難所生活を余儀なくされ、仮設住宅への入居も進まず依然として深刻な事態が続いています。本学では4月27日の吉田総長の呼びかけ以降、教職員を中心に、校友会、父母教育後援会、(株)クレオテックなどの関係機関からも多数の義援金が集まりました。

た。みなさまの志に厚く御礼を申し上げますとともに、その結果と義援金の送金先について報告いたします。

義援金総額2,029,879円

【義援金の送金先】

熊本県への送金 1,014,940円

熊本県西原村への送金 1,014,939円

災害復興支援室で義援金は、赤十字等の仲介団体、熊本県、熊本市、益城町、西原村、大分県、別府市の各送金先候補から検討が進められ、熊本県と熊本県西原村が選定されました。

熊本県は熊本県下25市町村の被災された方の被害に応じて配分されること、西原村はRU・APUの学生がボランティア活動を展開していること、これらの理由により、集まった義援金を二分し、熊本県と熊本県西原村へ送ることにいたしました。

ご協力誠にありがとうございました。

編集後記

夏休休暇を利用して東北・熊本の支援活動を行う学生の旅費支援を行っています。次号でご報告します。

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しました。<公式web <http://www.ritsumei.ac.jp/rs/20110311/>>